

資料

第3回

上下水道使用料改定(案)説明資料

佐賀県有田町

次第

1. 開会

2. 議題

- P1 料金の値上げ時期等について
- P2 前回(令和5年3月)の答申(抜粋)
- P3～P7 水道事業会計概要と値上げについての説明資料
- P8～P9 水道料金改定案とモデル世帯の料金
- P10 収益の変化
- P11 県内順位

料金改定の時期について

○下水道使用料については、令和9年4月徴収分より改定したい。

○前回の審議会での答申内容(次ページ)により、水道事業も5年以内に10%前後の料金値上げを行うとなっている。

○同一年に改定は避けたいので、令和10年に水道料金の改定を行いたい。

答申書

「有田町の適正な水道料金及び 下水道使用料のあり方について」

令和5年3月29日

有田町上下水道事業審議会

1. 適正な水道料金のあり方について

有田町の水道事業は、高度経済成長期に整備された水道管や施設の老朽化が顕在化しており、その更新のための建設改良費や、維持管理費の増加が見込まれる。

一方で、有田町の人口は減少傾向にあり、今後給水収益の大きな増加は見込めない。

独立採算制を原則とする水道事業を持続させていくためには、経費節減を継続することはもとより、更新費用を賄うために、より適正な料金体系への見直しを行う必要がある。

安全な水道水を安定して供給し、健全な経営を維持するためには、水道料金の大幅な改定が必要であるが、現在の社会情勢等考慮し、水道使用者の負担増をできるだけ抑制するために、下記のとおり段階的に改定することが望ましい。

記

- (1) 改定後の水道料金は別表のとおりとし、15%の増額改定を行う。
- (2) 実施時期については、令和6年4月に請求する水道料金から適用する。
- (3) 料金改定後5年を目途に、10%を目安とした増額改定を行う。

附帯意見

- ① 水道料金の値上げは町民の生活に直結することであるため、実施までに十分な周知期間を設けて、町民への丁寧な説明に努められたい。
- ② 料金改定後においても、効率的な事業運営や行財政改革を継続し、健全な経営が維持できるよう努められたい。
- ③ 高度経済成長期に整備した施設の大量更新や大規模災害時における迅速な施設復旧等に備えて、今後も積極的な人材育成、技術継承に努められたい。
- ④ 改定後の水道料金については、おおむね5年毎を目安に、社会情勢や水需要の動向に応じて検討・見直しをされたい。

目標：独立採算を行い収支の均衡を図るために料金改定を行いたい。

水道使用料改定理由及び概要

令和8年度から現金収支がマイナスになっている。

①使用料収入(有収水量)の伸び悩み

②維持管理費の増

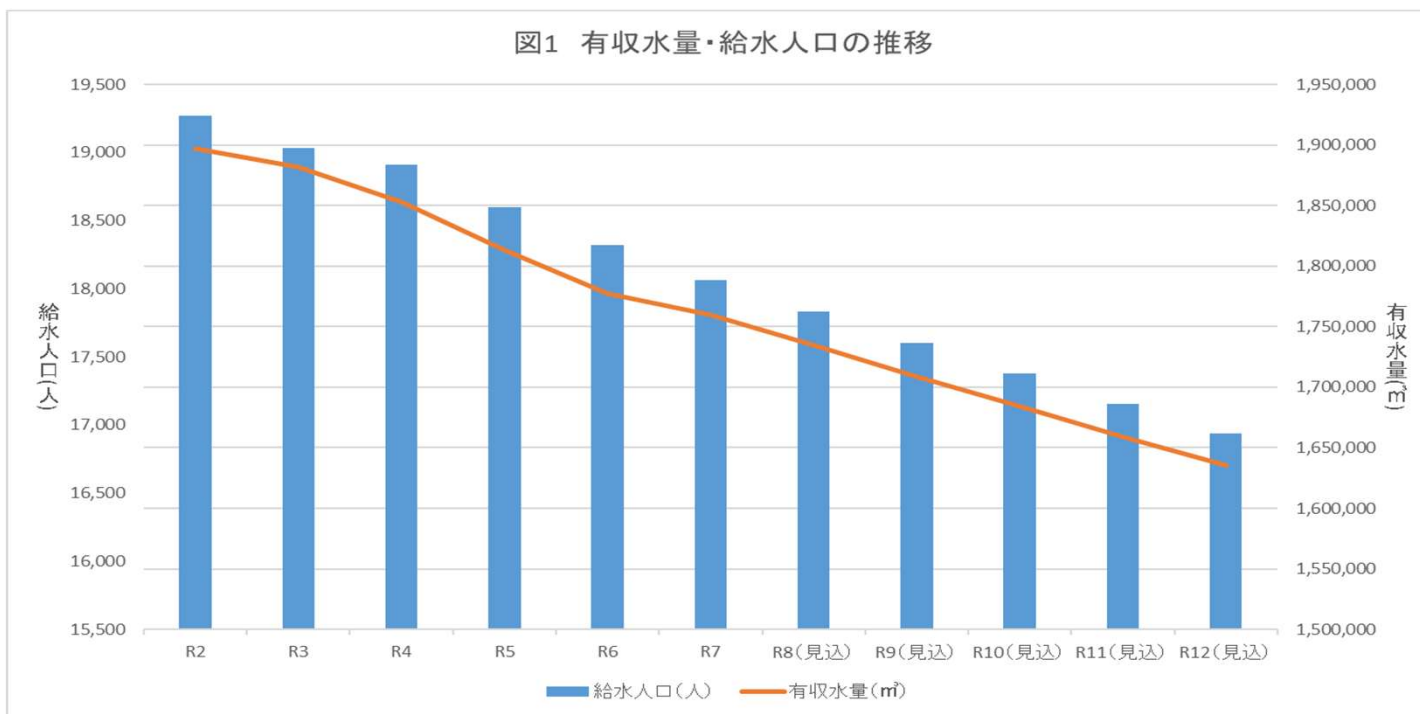
		(単位：千円)								
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度
収益的収支	収益的収入	446,138	475,213	463,881	457,375	452,050	446,806	441,715	435,780	428,740
	収益的支出	436,287	480,436	443,134	444,605	451,160	454,278	456,209	458,364	460,047
	純損益 (A)	9,851	-5,223	20,747	12,770	890	-7,472	-14,494	-22,584	-31,307
資本的収支	資本的収入	50,633	80,000	150,000	105,100	100,331	100,600	95,926	98,006	101,776
	資本的支出	198,168	341,111	316,207	304,176	241,487	217,534	227,719	236,973	211,547
	差引	-147,535	-261,111	-166,207	-199,076	-141,156	-116,934	-131,793	-138,967	-109,771
内部留保資金等 資本収支 補填財源		147,535	261,111	166,207	199,076	141,156	116,934	131,793	138,967	109,771
内部留保資金		140,809	164,657	139,758	137,161	139,995	116,934	131,793	138,967	109,771
利益剰余金 処分額必要額 (B)			96,454	26,449	61,915	1,161				
繰越工事資金										
その他		6,726								
現金収支 (C) = (A) - (B)		9,851	-101,677	-5,702	-49,145	-271	-7,472	-14,494	-22,584	-31,307
資金残高＝ 前年度資金残高 (C) +当年度現金収支 (B)		731,230	629,553	623,851	574,706	574,435	566,963	552,469	529,885	498,578

①使用料収入(有収水量)の伸び悩み

【主要要因】

- ◆人口減少による有収水量の伸び悩み
- ◆節水型トイレ・家電等の普及による一人当たりの使用水量の減少

※「有収水量」とは、作った水のうち水道使用料の対象となる水量を表す。

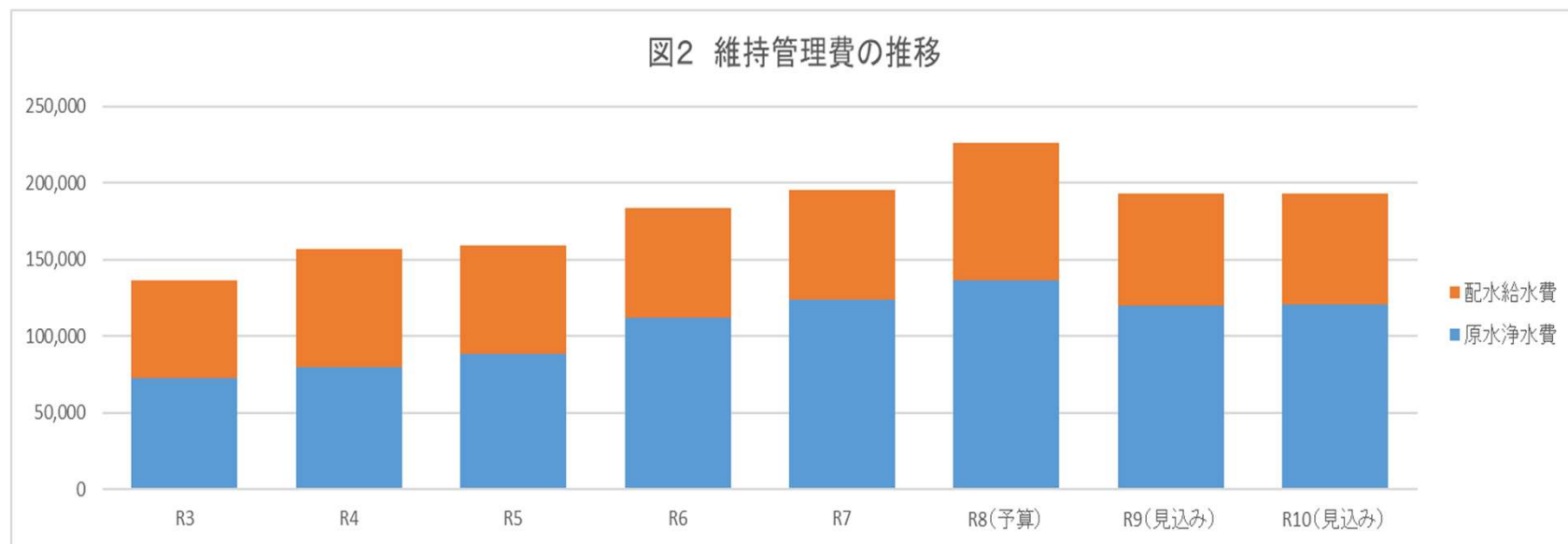


②維持管理費の増加

【原水浄水費】 浄水場に係る維持管理費

【配水給水費】 管路に係る維持管理費

◆増加要因: 修繕費や委託料、動力費の増加



※税込みで作成しています。
施設の減価償却費は含んでいません。

③減少している料金回収率

【主な要因】

◆人口減少により、
有収水量が減少



施設や管路の更新・維持
管理額に見合った使用料
収入が確保できない

【指標の意味】

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を評価することが可能である。

料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味するため、適正な使用料収入の確保及び維持管理費等の削減が必要である。

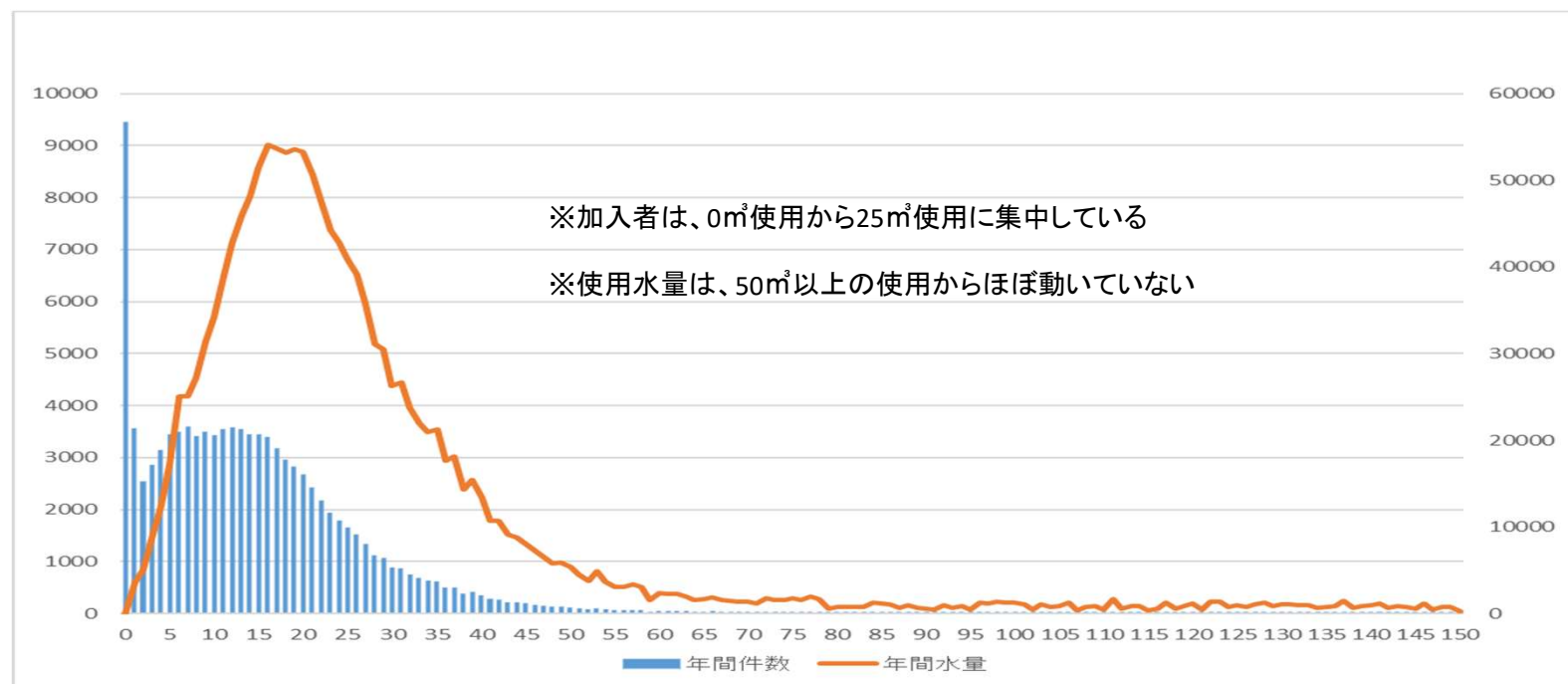
$$\text{料金回収率} = \frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}}$$

令和8年度末(見込み)における料金回収率・・・95.1%

(参考)使用水量別年間件数・使用水量構成

棒グラフは件数/月

波線グラフは年間使用水量



使用水量	0～8m³	9～15m³	16m³～
件数	35,413	24,407	40,302
件数比率	35.4%	24.4%	40.2%
使用料金	45,443,400	64,961,306	324,371,884
使用料金比率	10.5%	14.9%	74.6%

水道使用料金改定案(10%増額)

現行				改定案			
基本料金 (0m³)		超過使用料 (1m³あたりの料金)					
13mm	748	1m³～8m³	104	13mm	822	1m³～8m³	114
20mm	1,955	9m³～15m³	196	20mm	2,150	9m³～15m³	215
25・30mm	4,485	16m³～	219	25・30mm	4,933	16m³～	240
40mm	13,800			40mm	15,180		
50mm	20,700			50mm	22,770		
75mm	51,750			75mm	56,925		

税抜き1人当たり

改定案の料金見込み総額

現行				改定案			
基本料金 (0m³)		超過使用料 (1m³あたりの料金)		基本料金 (0m³)		超過使用料 (1m³あたりの料金)	
13mm	71,496,084	1m³～8m³	12,462,694	13mm	78,569,226	1m³～8m³	13,708,964
20mm	5,561,975	9m³～15m³	39,393,254	20mm	6,116,750	9m³～15m³	43,332,580
25・30mm	5,485,155	16m³～	251,277,446	25・30mm	6,033,059	16m³～	276,405,191
40mm	3,312,000			40mm	3,643,200		
50mm	3,746,700			50mm	4,121,370		
75mm	2,587,500			75mm	2,846,250		
税抜き計	92,189,414		303,133,394		101,329,855		333,446,735
税込み計	101,329,855		333,446,735		111,462,840		366,791,409

一般的な使用水量の料金(モデル世帯 1月当たり20m³使用 約3～4人世帯)

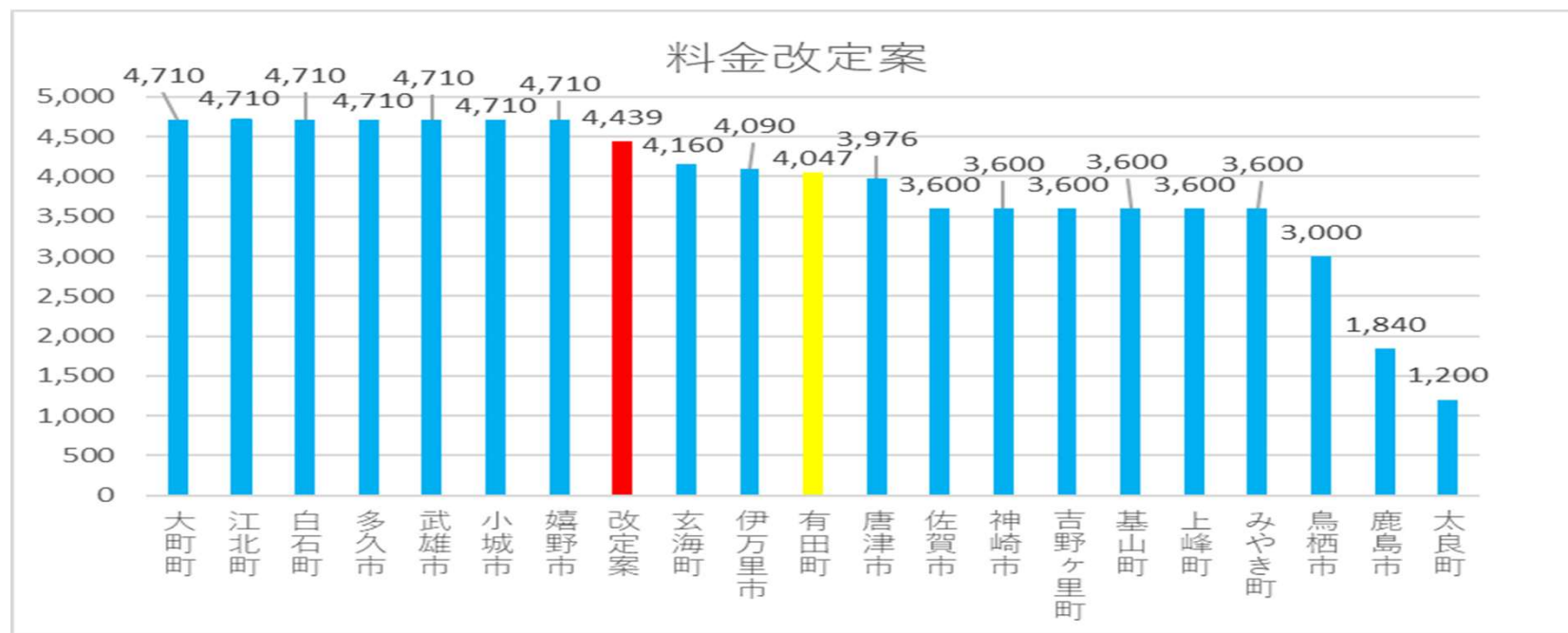
現行		改定案	
20m ³	748	20m ³	822
	3,299		3,617
計(税抜き)	4,047	計(税抜き)	4,439
計(税込み)	4,451	計(税込み)	4,882
差額(増額分)			431

収益がどう変わるのか比較表(水道)

		(単位：千円)								
		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度
収益的収支	収益的收入	446,138	475,213	463,881	498,365	492,442	486,609	480,937	477,090	469,447
	収益的支出	436,287	480,436	443,134	444,605	451,160	454,278	456,209	458,364	460,047
	純損益 (A)	9,851	-5,223	20,747	53,760	41,282	32,331	24,728	18,726	9,400
資本的収支	資本的收入	50,633	80,000	150,000	105,100	100,331	100,600	95,926	98,006	101,776
	資本的支出	198,168	341,111	316,207	304,176	241,487	217,534	227,719	236,973	211,547
	差引	-147,535	-261,111	-166,207	-199,076	-141,156	-116,934	-131,793	-138,967	-109,771
内部留保資金等 資本収支 補填財源		147,535	261,111	166,207	199,076	141,156	116,934	131,793	138,967	109,771
内部留保資金		140,809	164,657	139,758	137,161	139,995	116,934	131,793	138,967	109,771
利益剰余金 処分額必要額 (B)			96,454	26,449	61,915	1,161				
繰越工事資金										
その他		6,726								
現金収支 (C) = (A) - (B)		9,851	-101,677	-5,702	-8,155	40,121	32,331	24,728	18,726	9,400
資金残高= 前年度資金残高 (C) +当年度現金収支 (B)		731,230	629,553	623,851	615,696	655,817	688,148	712,876	731,602	741,002

※収益的収支の黒字を維持しながら、維持管理費等の費用を極力減少させる取り組みを行っています。

料金改定した場合の県内市町との比較



20m³は、3～4人世帯をモデルケースとして改定案を想定した使用水量